

# 第5回パワートレイル 千枚田エイドステーション

四谷の

千枚田だより



第188号



四月七日、北海道から沖縄まで全国から参加する九百九十名(男子八百八十三名、女子百〇七名)は茶臼山を起点として湯谷温泉をゴールに七十km、累計標高四千以上の山岳コースを走破する国内有数な過酷なレースが展開された。(昨年の完走率四十三%)

四谷の千枚田「ふれあい広場」は第二関門エイドステーションに指定され、この関門四十七kmを通過したランナーは来年の参加権が与えられる。

エイドステーションは保存会が母体となり連谷地域住民への呼びかけ協力を仰ぎ、最大の「おもてなし」を行った。

大会前日、棚田の娘達は都会の新城まで「おもてなし」の食材調達に、折角、街へ行くので、口紅を付けて、喫茶店でも寄つといでん、とお願いは会場設営に奔走、今大会は昨年よりも二週間以上も早いことからシャワーなどいらん、あった方がいい、などすったもんだの挙句、愛知県第一号の小水力発電「でんでんちゃん」の場所に設置。これが当たり前、選手のひとつがシャワーをかぶり、息づいたと喜んでた。

当日は湧き水天日干しの棚田米

「みねあさひ」のおにぎりと害獣駆除の資源活用とした「シシ汁」を大はそり五釜用意し、ランナー、その家族、応援スタッフ全員に精一杯の「おもてなし」をした。

春蘭漫、映画「あん」のラストシーンの桜も満開で、絶好な行楽日和と選手のコンディションも絶好調であったのか、例年を越す人数でふれあい広場も溢れんばかりの賑わいをみせた。それに「食べりん、食いん」、「お茶が冷たくて、美味しいで！」とついつい過剰なおもてなしで三時ころには「おにぎり」が無くなっちゃうと急遽炊き出しに、大きなハブニングを経験した。

また、若い衆が取り持つ、恒例の特別メニュー千枚田ならではの「鳥長」の皮肝がチョウ人気であった。

特設 シャワー





## 地域貢献活動

三月二十九日、四月五日の二日間、(株)横浜ゴム新城工場は地元貢献活動の一環として七日に行われるパワートレイル大会に先立ち、ふれあい広場から仏坂までの市道・県道のコースの清掃活動を実施していただきました。

選手やこの競技に携わった諸々の関係者がこうした地道な活動が大会に寄与していることを感じて頂ければ、と依頼者として願ってやまない。

## 横浜ゴム新城工場研修受け入れ



四月五日、横浜ゴム新城工場新入・幹部研修が千枚田を会場に行われた。

この研修はすでに十四年間継続されており、環境保全や各種行事の協力等々、保存会とはすこぶる佳い関係にある。

昨年までの新入社員研修は(舜)が先達で千枚田の概要、自然環境、文化等々を説明しながら「ふれあい広場」まで引率したが、本年はこれも研修と考え、社員幹部三名にバトントッチした。引率の使命を受けた幹部三名は事前にリハーサルを行う熱の入れよう、上手くハマったし上出来だったと、ほくそ笑んだ。ふれあい広場に到着した社員は昼までの間、パワートレイルの会場の環境整備に勤しんだ。

昼は保存会が用意したシシ汁と味飯を堪能した。

午後の部として穂積新城市長から「ようこそ、新城へ」と歓迎の挨拶。続いて県新城設楽農水事務所加藤建設課長より「県として千枚田の施設整備、ふるさと水と土指導員を通しての支援物資の供給」等々挨拶があり、さて本題の社員ひとり一人の自己紹介が松下(会計)の軽快なテンポで進行、九州男児らしい意気

込みに三河男児も負けじと自己アピール。なかでも「お姉ちゃんが務める会社に憧れを持って就職した、など安定した会社であることが垣間見られる紹介に研修を受け入れ沢山保存会の面々も満足げに聞いていた。

環境整備活動を終え、社員一同整列、引率班長の音頭で「鞍掛山ありがとう」千枚田ありがとう」が遠望に木霊した。



## 保存会役員会

四月二十三日、連谷会館において

総会と「お田植感謝の夕べ」等を議題に役員会が開かれた。

# お田植感謝の夕べ

せんでん

～みんなで灯そう千枚田～

開催期日 令和元年6月1日(土) 午後7時から  
 催し いつものとおり 沿道に1500本の灯と花火 沢山しし汁 五平餅 鳥長の皮肝ほか

**注意事項**  
 この催しは皆さんの協力金で賄われています

主催 鞍掛山麓千枚田保存会  
 共催 連谷地域の皆さん  
 協力 愛知県ふるさと指導員

## 今後の予定 田植え

- ・五月八日、鳳来寺小学校(代かき)
- ・五月九日、豊橋調理製菓専門学校
- ・五月十一日、愛知東こども農学校
- ・五月十八日、新城高校農業クラブ

行 令和元年五月一日  
 鞍掛山麓千枚田保存会  
 文責 小山舜二